

H26学校評価に向けた学校アンケートまとめ

<調査時期 平成27年2月18日～3月6日>

区分	概要
児童生徒 (適合度) 回答数 (76/78) 回答率 97.4%	<ul style="list-style-type: none"> 適合度(7点満点)は、16項目中10項目が5点以上であり、4点未満は1項目のみであり、各項目について良い評価をしている。 4点未満の項目は、「卒業後の進路や生活について、先生や保護者と相談できている」であった。 回答傾向を見ると、「自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている」(自己肯定感に関するもの)のマイナス評価が合わせて34.3%あった。
保護者 (重要度・実現度) 回答数 (76/78) 回答率 65.4%	<ul style="list-style-type: none"> 実現度は全ての項目で4点以上あり、おおむね良い評価をしている。 重要度については、最低でも5.7点であり、多くの項目について重要と考えている。 ニーズ度(重要度に対する実現度の割合)については、「子どもの自己肯定感」が高まっているの項目が高くなっています、「自己肯定感」を高めていく取組が求められている。 回答傾向では、「自己肯定感」についての項目、「保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している」の項目の実現度が比較的低くなっている。
教職員 (重要度・実現度) 回答数 (46/54) 回答率 85.2%	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ度については、「児童生徒は、自己目標をもち、課題を意識して学習に取り組んでいる」「児童生徒の感染症予防を意識して、保健、衛生管理に留意している」「保護者は、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している」「地域校との交流、共同学習において、児童生徒は意欲的に活動している」の項目が高くなっています。 回答傾向では、「地域校との交流、共同学習において、児童生徒は意欲的に活動している」「地域との連携・協働による学習(実習)環境の設定ができる」の実現度が比較的低くなっています、今年度から取組を進めている「地域協働活動共同開発」(文部科学省事業)の取組をより一層推進していくことが次年度の課題となる。
卒業生保護者 (適合度) 回答数 (44/87) 回答率 50.6%	<ul style="list-style-type: none"> 適合度では、「職場の人と世間話などをしているようですか」「仕事や遊びなど、場面に応じて服装を変えていますか」「家事などで自分の役割がありますか　その役割をできていますか」「携帯電話やスマートホンを適切に使っていますか」「付き合っている異性がいる場合、家族から見て付き合い方は問題ないと思われますか(いい場合は回答不要)」「食事や寝る時間などは、毎日決まっていますか」など、コミュニケーション面や生活面に課題があることがうかがえる。 「朝は自分で起きて、遅刻せずに仕事に行っていますか」「バスや電車を使い、一人で出かけていますか」等、仕事に向き合っている面もうかがえる。
企業・施設等 (適合度) 回答数 (39/73) 回答率 53.4%	<ul style="list-style-type: none"> 適合度では。「生活を送る上で必要な情報を、テレビや新聞、インターネット等から得ていると思われますか」「同僚や上司から見て、給料を適切に使っていると思われますか」「休日に行った所やしたことを職場で話していますか」など、生活面やコミュニケーション面での課題がうかがえる。 また、「自分の将来の夢を同僚や上司に話していますか」の点数が2.8と低くなっている。